



中部電力

ケーブル分解装置の開発

廃止措置で発生するケーブルの分解が出来ます。



背景・目的

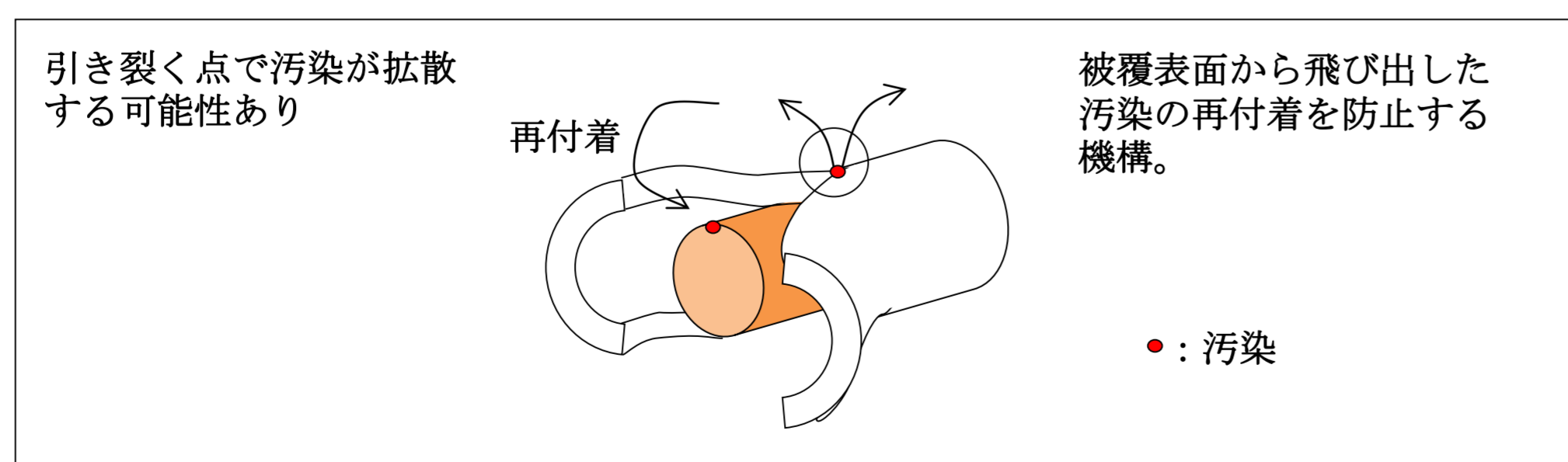
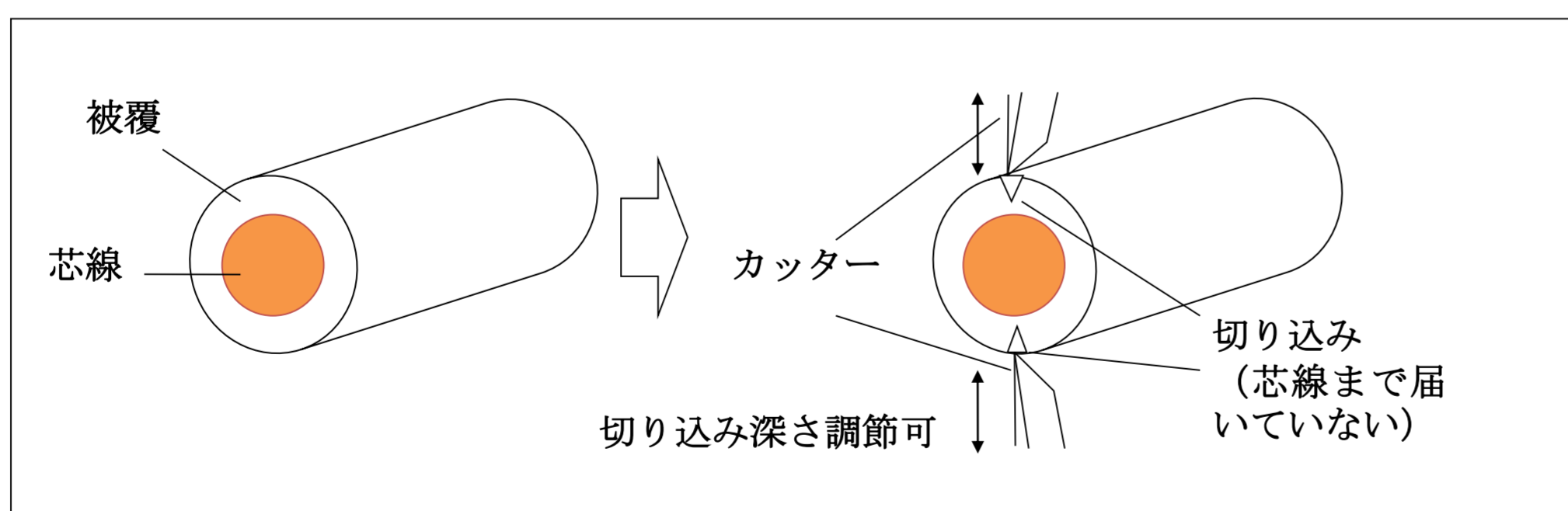
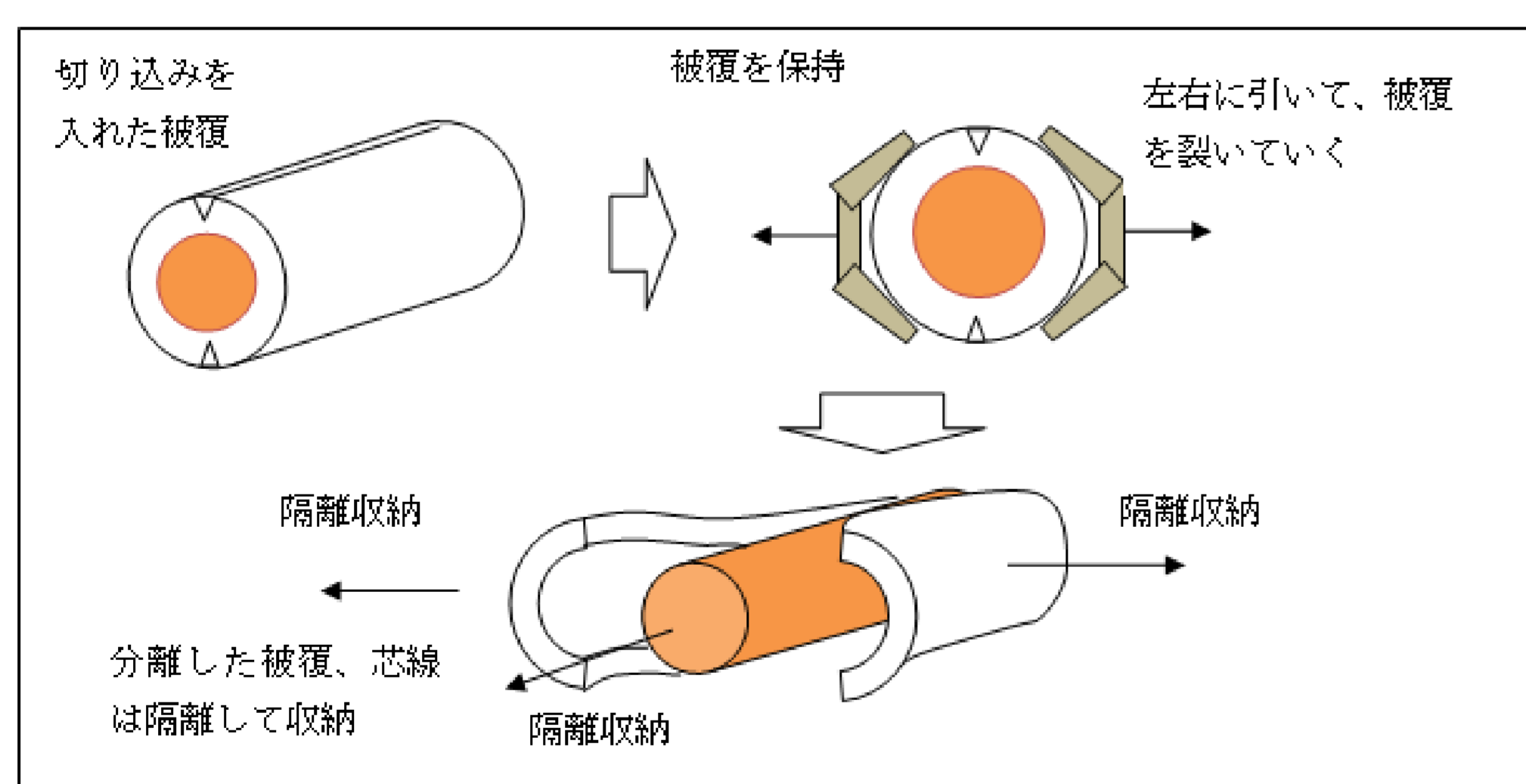
- 廃止措置に伴い、多量の廃ケーブルが発生するが、放射線管理区域内で発生した廃ケーブルは放射能汚染されたという位置づけから発電所外へ搬出し、処理する事ができない。
- 廃ケーブルの被覆は汚染していても、芯線部は汚染されていないため、被覆と芯線部を触れることなく分解する事が出来れば、廃棄物の低減および有価品販売における利益が期待できる。

特長

- ケーブルの被覆と芯線部を触れることなく分解できる。
- 分離の際の汚染物質の二次付着防止が可能。
- 長いケーブルに対応。

用途

- 原子力発電所から発生する電源ケーブルの分解。



ケーブル被覆分解方法



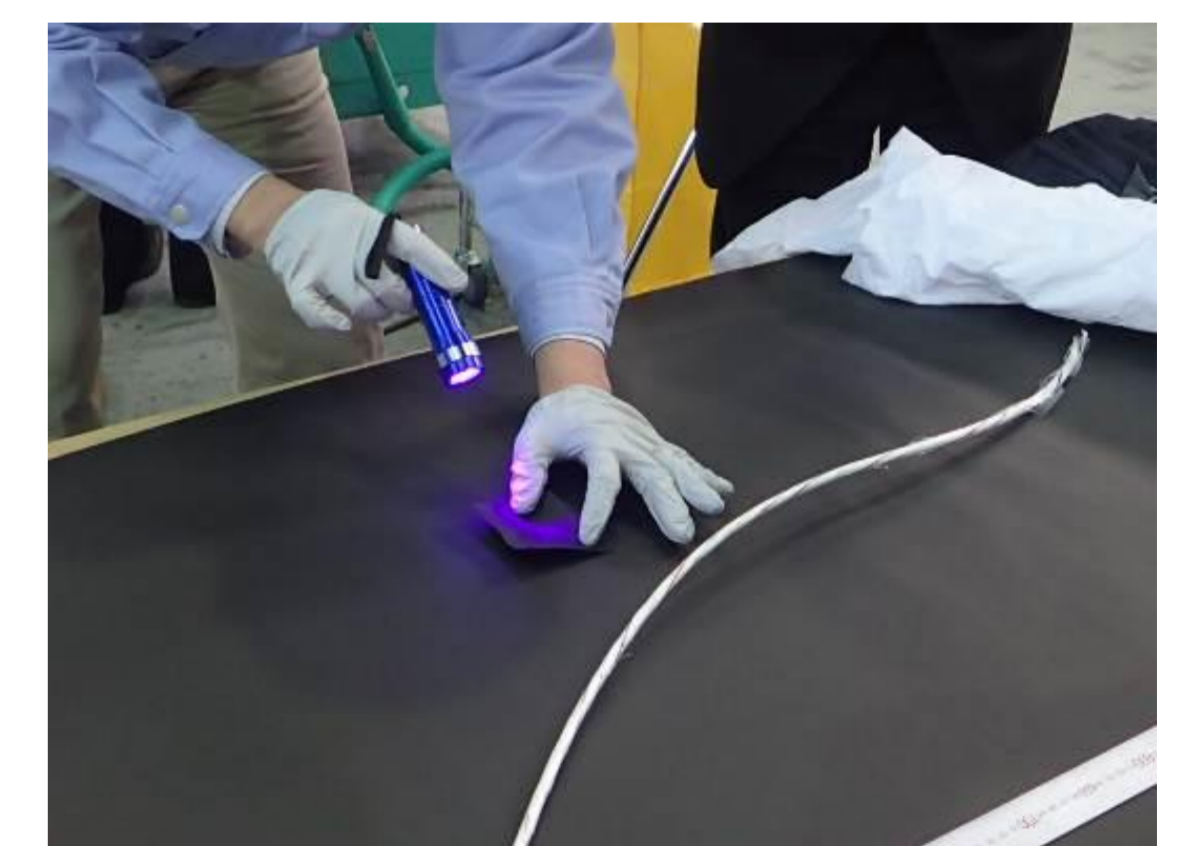
① 模擬パウダー塗布



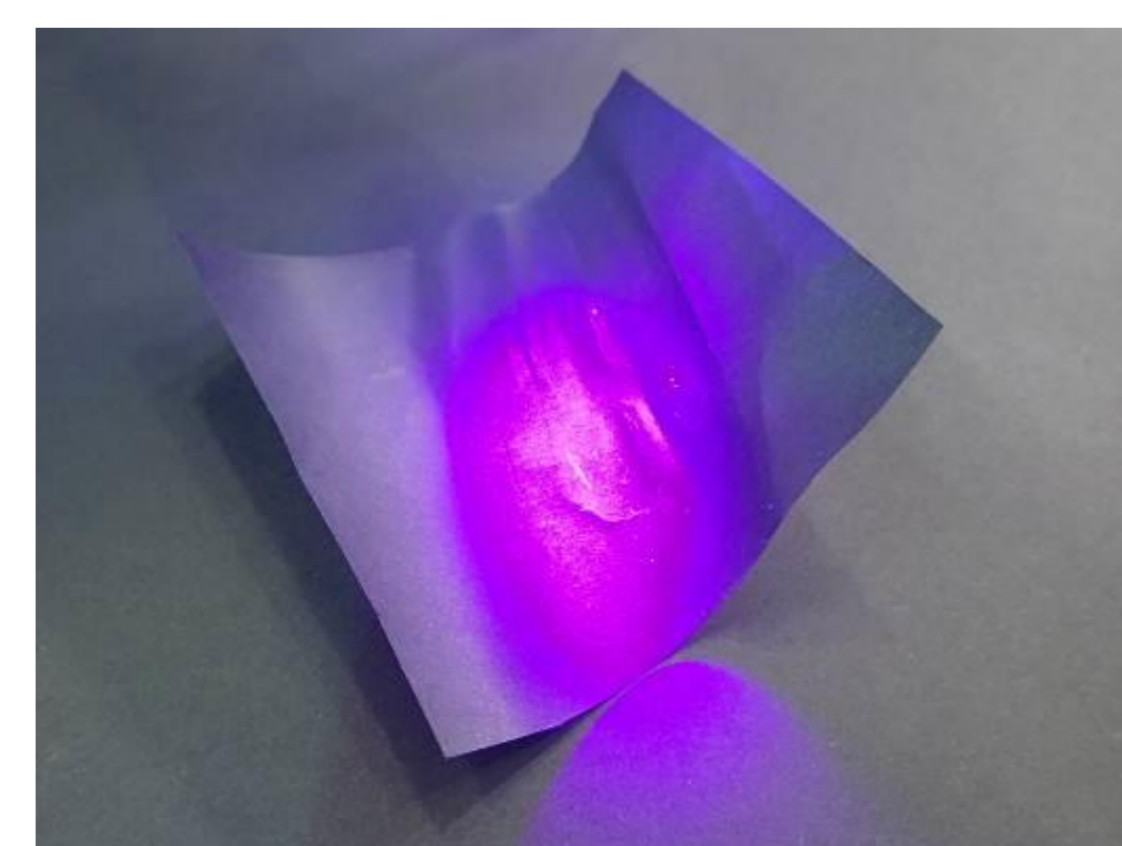
② ケーブル分解装置で分解



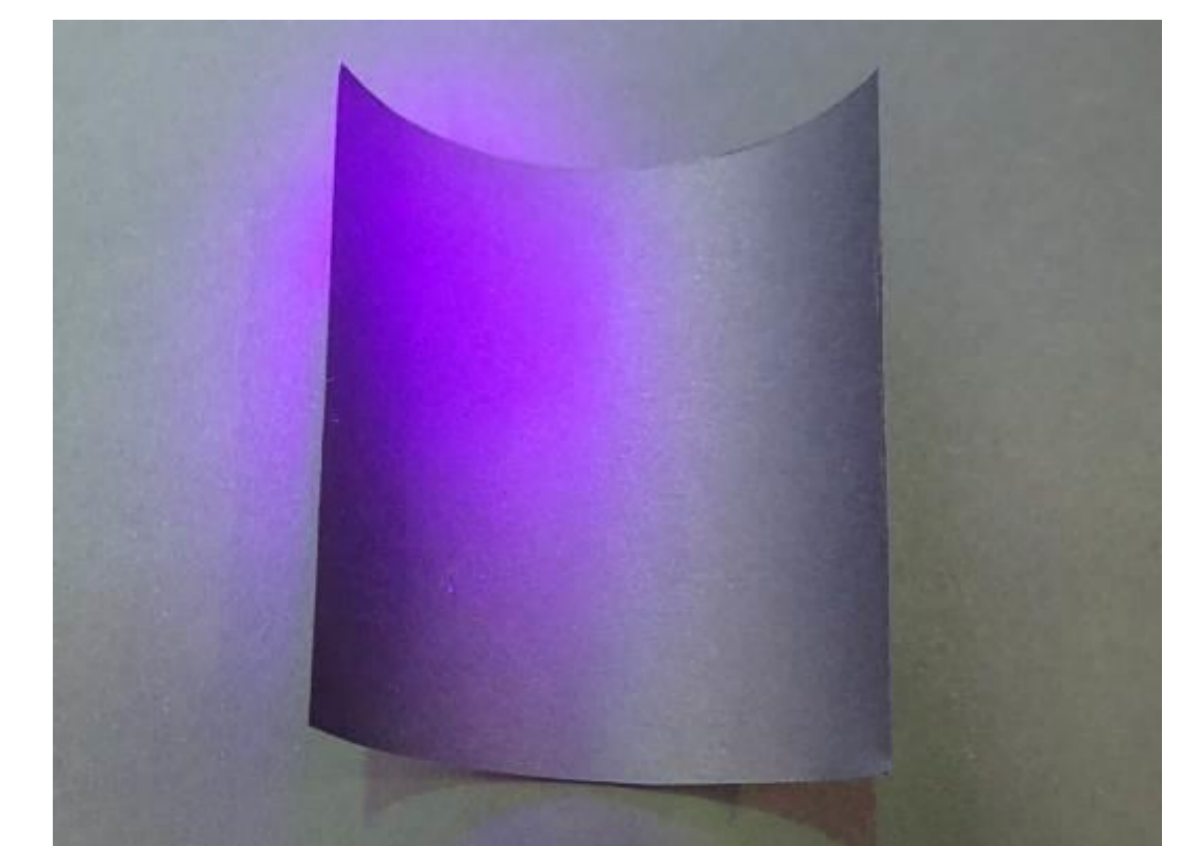
③ 芯線拭き取り



④ ブラックライトで確認



二次付着を確認



(参考)二次付着がない状態

二次付着確認方法

開発者のひとこと

ケーブルの分解方法は市販の剥線機を流用したこともあり、比較的簡単に製作できましたが、放射性物質の二次付着については、空気で吹き飛ばす方式としたことで、空気の流れや風速について、度重なる試験を実施しました。

この試験結果から、二次付着に対しても十分な対応が可能となり、今後の廃止措置に活用が期待されます。